



在宅医療相談室だより



発行：瀬谷区在宅医療相談室 〒246-0037 横浜市瀬谷区橋戸1-36-1 ☎ 045-520-3122

ごあいさつ

今年の冬は、かつてないほどの寒波に襲われました。その為、大雪に見舞われたり、寒さで水道管が凍ったりと皆さんも大変な思いをされたと思います。また、インフルエンザも大流行となり、あちこちで学級閉鎖や施設への出入り禁止などがありました。そんな冬も、あと少しでお別れです。寒さが過ぎれば春がもうすぐそこです。たくさん着込んだ服を一枚一枚脱ぎ捨てて、元気に冬を乗り越えられるといいですね。在宅医療相談室も4年目を迎えて、少しずつその役割が明確化されてきました。地域の中で何をすればいいのか、何を求められているのか、これからも考えながら、企画・運営していきたいと思います。

在宅医療相談室では、区役所、各サービス団体、地域ケアプラザなどと共に、連携会議やスキルアップ研修などを企画・運営しています。また、年間10回以上の事例検討会議も行っています。

平成29年度活動内容

- 9.12 医療講演会「看取りについて」 下瀬谷地域ケアプラザ
- 10.19 「神経難病・脳血管障害のご家族を持つ介護者の会」あく手の会
- 6.28 かかりつけ医の在宅医療研修会
- 8.24 「セルフコントロールを学ぶ」 大野 裕先生講演会
- 9.5 「高齢者を見守る資源と活用の可能性」区レベルケア会議
- 11.30 「救急医療の現場から 地域・医療・病院の連携を考える」
- 12.8 「多職種相互理解を深める」 医療・福祉セミナー
- 30.1.13 「在宅で活用するノーリフト」 日本ノーリフト協会スキルアップ研修
- 2.9 「三師会とケアマネジャーとの情報交換会」
- 2.22 「医療倫理・意思決定支援 事例を通して」 竹下啓先生講演会

平成29年度活動予定

3月16日多職種連携会議「区レベルケア会議」

在宅医療相談室の連絡先

電話 045-520-3122
FAX 045-302-5608
MAIL seya-soudan@shore.ne.jp



10月19日あく手の会は、「神経難病・脳血管障害のご家族を持つ介護者の会」を開催しました。介護者の方だけでなく、中には療養中の妻とともに参加された方、重度の障害を持つご両親を介護されている方、息子さんを介護されている方など、それぞれの立場から思いを分かち合い、会が終わるころには、「ほんとにいい会だった。」「こんな機会を作ってくれてありがとう。」という言葉も頂きました。医師会からは、神経内科の川口千佳子先生にグループワークから入って頂き、多くの質問に答えていただきました。

あく手の会について

あく手の会は、瀬谷区在住で介護をされている方を対象に、介護者同士が互いに支えあう場所、介護に関する学びの場所、将来の不安を軽減できる場所を提供することにより、介護で疲弊することによる様々な問題を解消することを目的として、近隣区の居宅介護事業所の有志と、瀬谷区在宅医療相談室が中心となって企画、運営する任意団体です。

次回あく手の会は「ご家族を亡くされた遺族の会」を企画中です。

Akushu



今年度の区との取り組み

9月5日に行われた区レベルケア会議では、昨年度も継続課題となった「救急時の連携」に焦点を当て、消防(救急隊)、警察、各病院連携室、地域、行政が参加して意見交換が行われました。またグループワークにより、「情報の共有、そのための共用連携ツール」の必要性が再確認されました。これをうけ、11月30日の多職種連携会議では再度医療・救急・在宅の現場レベルでの検討を重ね、臨場感のある意見交換の上、現場での問題点や課題を抽出することができました。さらに具体的な連携ツールとして、緊急カードや安心カードの改善、周知などを行うこととなり、地域包括ケア会議ではキーホルダーの配布なども検討され、この地域での情報共有に対する意識が一段と高まりました。今後、修正された安心カードの配布や、カードサイズの緊急カードなどの周知を行っていく予定です。



研修会報告

8月24日「セルフコントロールを学ぶ」では、精神科医でストレスマネジメントネットワーク代表の大野裕先生により、認知行動療法によるセルフコントロールを教えてくださいました。つついネガティブに傾きがちな自分の気持ちを、上手に組み替えて自分の気持ちの中にあるポジティブな思考に変化させる方法です。何かと厳しい医療・介護の業界で、良いモチベーションを保って行けるようなお話でした。



第15回瀬谷区医療・福祉セミナー

瀬谷区内の訪問看護ステーションと、ケアマネットの代表、西部病院ホームケア、瀬谷区高齢障害支援課、在宅医療相談室で構成されている瀬谷区訪問看護連絡会ですが、今年は疾患や事例中心ではなく、「連携」をテーマに行いました。特に訪問看護との連携について、アンケート結果から課題抽出し、寸劇も取り入れ、グループワークを行いました。講義は、大和市で認知症連携の第一人者田中クリニックの田中千彦先生から、『よりよいノート』を活用している現状をお話しいただきました。



1月13日「在宅で活用するノーリフト」

昨年度は区との共催で、2回に分けたノーリフトセミナーですが、今年は瀬谷区訪問看護連絡会との共催で行いました。今回は、聖マリアンナ横浜市西部病院の講堂をお借りし、ひとは菜福祉用具事務所からベット7台も提供して頂き、ベストな環境でのスキルアップ研修となりました。今年も「目からうろこ」の講義と実技を体験し、出席者からは「看護介護の基礎として、学生のカリキュラムに入れるべき。」と言う声も聴かれました。



2/22
参加費無料
先着300名

経口摂取不可能と診断された患者の家族が経口摂取の再開を強く希望した事例を中心に臨床倫理を学ぶ

たけした けい
竹下 啓 先生

南山学院大学
看護学部 教授

約20年間の臨床経験と、人工呼吸器、人工栄養器、人工透析などの医療機器の活用と、患者の生命と倫理の両方を重視する姿勢に、多くの医療従事者から尊敬されている。また、多くの医療従事者から尊敬されている。また、多くの医療従事者から尊敬されている。

日程 平成30年2月22日(木) 18:45~20:45 (受付18:15~)

会場 瀬谷市地区文化センター サウナート 3F(大ホール)

対象 医療・介護従事者の方

定員 300名(先着300名)

ケアマネ連絡協議会西部地区と、在宅医療相談室西部地区との第1回合同研修会開催！

医療倫理と意思決定支援を、事例検討会から学びました。生命とは、倫理とは？永遠の課題にどう取り組むかを一緒に考えることが出来ました。今後毎年持ち回りで継続予定です。講師の竹下敬先生の、絶妙な進行に気が付けば巻き込まれていました。

2月9日には、第2回瀬谷区三師会とケアマネジャーの情報交換会が行われました。今年から薬剤師の皆様にもご参加いただき、積極的に交流が行われました。今年から、認知症初期支援チームが発足されたこともあり、その活用方法などのインフォメーションもありました。一部では、訪問薬樹薬局の井上様より「かかりつけ薬剤師が行う居宅療養管理」をテーマにご講演頂きました。

介護職向け

けあのおつぼ

冬場になると、よく患者さんの足の指が紫色や黒っぽくなっているのを見ることがあります。身体の循環が悪くて、特に糖尿病の方、動脈硬化の強い方、リンパの流れや静脈の流れの悪い方などにもみられます。軽いうちは保温などで改善しますが、血管の状態が悪くなっていると、深爪をしたり、どこかに足先をちょっとぶつけただけで、そこから黒くなったり水泡が出来たりして、あっという間に壊死してしまうことがあります。痛みを強く訴える方と、神経障害であまり訴えず、気が付かない人もいますので、特に末梢の血管が収縮する冬場は、周りの人が十分注意してくださいね、原因は人それぞれですが、清潔と保温に気を付け、けがを予防するとともに、ちょっとでもおかしければ、医師や看護師に相談してくださいね。



冬季オリンピックも終わり、北朝鮮の問題もまた振り出しになるのでしょうか？厚木基地から飛び立つオスプレイなど、瀬谷の上空を飛んでいるのをご存知でしょうか？そんなこととはお構いなく、瀬谷の春もすぐそばまで来ています。

福寿草は早々と花を咲かせて、今はフキノトウが次々と顔を出しています。毎日バタバタしているうちに、又海軍道路の桜の時期がやってきます。それまで、あと少しの辛抱です。

そうそう、花粉シーズンですので、十分予防してくださいね。

